

銘柄分析レポート：堅牢性に基づく企業の選択

1 はじめに

プラク・プラサド (Pulak Prasad) は、インド株への長期投資で成果をあげた投資家です。

自ら運用するナランダ・キャピタル (Nalanda Capital) のファンドで2007年から2023年までの間に年率20.3% (手数料控除後) の収益を生み出し、インドの代表的な株価指数であるSENSEX指数を10.9%上回りました。

プラサドは著書『What I Learned About Investing from Darwin』(ダーウィンから学んだ投資)の中で「堅牢性に基づく企業の選択」について述べています。

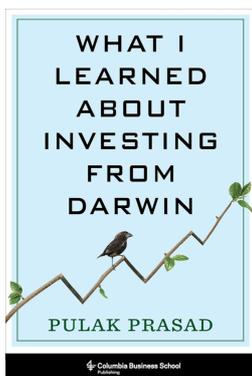
ナランダでは、複数のレベルで堅牢な企業にのみ投資しており、その大まかなリストは下記のとおりです。多くの要因が定性的なものであることが分かります。

- (1) 長期にわたり高いROI Cをあげている
- (2) 顧客基盤が幅広い
- (3) 借入金が少なく、十分な現金を備えている
- (4) 高い参入障壁を築いている
- (5) サプライヤーが分散している
- (6) 経営陣が安定している
- (7) 変化の遅い業界の属している

著者によれば、これまで40件近くの投資を行った中で、失敗は2件のみでした。「非常に幸運だった」と振り返っているものの、戦略の成功率としては極めて高い数字です。

本書を読んで、この「ビジネスの堅牢性を表す7つの要素」を私自身の銘柄分析にも取り入れたいと思いました。今月号の銘柄分析レポートは、堅牢性に基づく企業の選択がテーマです。

★『What I Learned About Investing from Darwin』(ダーウィンから学んだ投資)



英語版をアマゾンで購入できます。